

芸人時代に沖縄の「長寿の島」を取材するロケ番組をしたことがあります。その島には、病院がなく、大きなけがや病気になるれば船で石垣島まで行く必要がありました。島の人たちは、病院を望み、その願いがかない、お医者さんが島にやってくることになりました。そして、平均寿命が高い長寿の島となったのです。その長寿の秘訣を探るために密着取材をするのが私の役目でした。

長寿の秘訣は、お医者さんの往診。患者さんから呼ばれる以外に



大阪成蹊大准教授 福岡亮治

いじり封印 「ゆんたく」の楽しさ

も、暇を見つけては気になるお年寄りの家を中心に往診をし、実際に調子の悪いお年寄りの患者さんを発見したこともあったそうです。



長寿の秘訣はもう一つあります。それは「ゆんたく」。沖縄の方言で「おしゃべり」という意味です。そのお医者さんは、往診時に、必ず「ゆんたく」をします。

島の人たちは先生が大好き、先生が大好きだから待ち遠しくな



密着取材して気づいたのは、ごく普通の会話なのに、お医者さんは常に声を出して大笑いしていること。島の人もそれにつられて、大笑いをしていました。とても楽しい空間で見ている私も思わず笑みがこぼれていました。

待ち遠しくなるから、先生が来たら楽しくなる。楽しいから笑顔があふれる「ゆんたく」の場となる。島の人たちの明るい笑顔を引き出すすてきな好循環が生きていく楽しみとなり、長寿につながっていったのでしょう。1週間の密着取材でしたが、お別れの時に寂しくなり、号泣してしまっほど、私にとっても毎日楽しい時間でした。笑いのプロであった私が、先生の笑いに魅了されていました。誰も不快にすることなく、楽し

い空間をつくる先生の技術を学んだことが、私のお笑い芸人としての原点となりました。実際にこのロケの後から、誰かをいじるといふネタを全て封印しましたが、仕事は順調に増えていきました。大したネタもできない芸人でしたが、誰も傷つけない楽しい空間を意識したことで楽しさを伝えることができたのかなと考えています。



これは、教育の世界でもいえること。誰もが安心できる楽しい空間を作れば自然と笑みがこぼれま

す。そう考えると学校の先生は、笑いのプロではありませんが、笑顔であふれる学級にすることができるのです。子ども同士も同様です。容姿やキャラクターをいじり、誰かをおとしめて笑いをとることよりも、誰も犠牲にせずみんな楽しく笑いあえることの方が、すてきな時間となります。私は教員時代にその空間をつくることを何よりも大切にしていました。

楽しい空間から好循環が生まれ、誰もが楽しく生き生きする「ゆんたく」の場ができることを心から願っています。こんな時だからこそ、笑顔であふれる世界になれたいです。